

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所〓社会通信社

発行人〓滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポ幡ヶ谷九〇四 電話(03)3377-4649

FAX(03)3299-5367

振替〓東京0158431 労金〓東京労金本店No1154163

購読料〓月額500円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

憲法総学習運動を……………2

政府・自民が自治労意識調査に注目……………3

——政界再編の本質は社会党の再編(二)——

資料1 外交・防衛問題についての連合への申し入れ(党建協)……………7

資料2 政府のPKO法案、廃案への意見(憲法を活かす会)……………9

資料3 腐り切った自民党と対決を(党建協)……………10

新たな世界に、旧い動き……………11

——ペルー、フジモリ大統領のクーデター——

◇武井廣司さんに聞く②◇……………16

岩井さんの魅力あれこれ……………

好評増刷中

『紙ひとえの選択』に多くの反響

お申し込みは社会通信へ

刊旬 社会通信

NO. 506

一九九二年六月一日

一九九二年六月一日発行
(毎月一日・二日・三日三回発行)

■ 巻頭言 ■

憲法総学習運動を

P K O 法案反対の動きが活発となってきた。五月一四日、衆院第二議員会館で「P K O 法案を廃案へ、S T O P 自衛隊海外派兵、五・一四シンポジウム」が、憲法を活かす会のよびかけでおこなわれ、百名をこえる人びとが集まった。

まずあいさつにたった國弘正雄氏は、「現在は関ヶ原、われわれの悲願、武装勢力を海の外に出さないという過去の戦争の反省が破られ、崩されようとしている。院の外と内で力を合わせよう」「小異を残し大同につこう」と訴えた。

次に講師として出席した憲法学者の星野安三郎氏は(1)最大の「国際貢献」は軍隊を出さないこと、(2)P K O 法案の廃案をめざそう、(3)非軍事・民主・文民の合意をつくろうと話した。

もう一人の講師、前社会党委員長の土井さんは「今なら間に合う、私はこう考える」とのテーマで、(1)国会での論議は技術的、小手先のやりとりばかり、これではダメ。大事なことが見失われている。(2)はじめに派遣ありきは絶対にダメ。(3)憲法は国の基本法。P K O は改憲以外のなものでもない、語気鋭く講演。「はじめの一兵は平和憲法のいのち」とり。よかったという選択ができるようがんばろう」と結んだ。

このシンポジウムと前後してさまざまな行動もおこなわれた。資料2にある「意見」が田辺委員長、山花書記長に申し入れられたし、党建協は連合会長(資料1)、山花書記長(資料3)の「申し入れ」をおこなった。そして五月一九日には社会党が、ついで五月二六日には社会党を中心とする有志がP K O 法案廃案をめざし、東京・日比谷野外音楽堂で集会を開く。

他方、連合は五月一五、一六日の三役会議の結果、「国の基本政策」に関する連合の態度」をまとめた。その要点は(1)日米安保条約、自衛隊の容認、(2)P K O 法案の最重要課題である自衛隊の海外派兵について「休職・出向」をイメージする」との表現で、自衛隊の海外派兵を認めたことである。

この三役会議では二二人が発言したという。ビックリしたのは自衛隊違憲論を主張したとみられるのは、自治労、日教組、金属機械の三単産のみ。他の一九人の発言は「自衛隊は合憲」「自衛権は国家の基本的権利」というもの。連合ができてわずか二年半で、このように様変わりしようとは！

現在は憲法の危機にある。文化の交通信号、岩波新書の表紙の色ではないが、第二次世界大戦前に発刊された時が「赤」、大日本帝国の崩壊、憲法の時代には「青」、そして七〇年代、憲法の空洞化がいわれたときには「黄」、そして現在は「赤」だ。赤信号のもと自民党は爆走し、その爆走にブレーキをかけねばならぬ労働組合がアクセルを踏んでいる。それが連合の決定の本質である。

内外ともに世界は枠組み転換の時代にある。世界は「冷戦構造」終焉後の新しい国際秩序をもさくし、日本は「憲法体制」からの離脱がたくらまれる。そしてその背後で古い動きも目立ってきた。ペルー大統領のクーデター、タイでの民衆蜂起、アメリカでの多民族を巻き込んだ暴動、そして各種選挙での民族主義政党の躍進。日本では戦争政策へのあともどろだ。憲法は平和主義とともに国民主権、基本的人権をもあわせもっている。今こそ憲法総学習運動にとりくむときである。すべての生活領域で。とりわけ自治労、日教組の仲間にはその意義は大と思う。分会、支部、県等々で憲法総学習運動を展開し、今夏の大いにそれをもちようではないか。

政府・自民が自治労意識調査に注目

——政界再編の本質は社会党の再編 (二)——

参院選と自民党

司会 参院選が刻一刻と近づいています。告示が七月八日、投票七月二六日です。奈良や宮城での参院補選当時、「自民退潮必至。参院戦後、政界は激変、政界再編成も」との主張がくり広げられました。しかし、群馬衆院補選で自民党が二つとり、茨城参院補選で社会党が候補を擁立を見送り、不戦敗に終わった頃から、論調にも大きな変化があらわれてきたように思います。

選挙のプロや自民党の選挙参謀たちは、「今度の選挙で勝つ党はない。どの党が敗れ数を最小限にとどめるかが勝負」と見始めていることです。私もそう思います。

現在の参院の状況は自民が一四、社会七一、共産一四、公明二〇、民社一〇、連合参議院一三、その他九です。参院の定数は二五二、したがって過半数は一二六です。自民は単独過半数に一二たりません。民社と組んでもまだ二つたりません。そこで、公明党もいっしょにと「自公民」体制づくりに躍起なわけです。今度の参院選で自民党が単独過半数を得るためには、八六の議席を得ることが必要です。しかし、これはとても不可能です。

今度の参院選の改選数にこれは明かです。自民七四、社会二一、共産九、公明一〇、民社五、連合参議院一、その他五が改選数です。自民党が圧倒的です。前回の参院選での自民当選者は三九ですから、八六年選挙での自民の勝ち方の異常ぶりがわかうというものです。これは過去の選挙結果からみても特殊です。第二次世界大戦後の推移はおおよそ六八プラス・マイナス三であるからです。したがって、常識的には今次参院選で自民党が七五を得ることは一〇〇パーセント不可能となります。行革の矛盾が自民党支持基盤を直撃し、自民党の支持基盤が激しく揺れ動き、宮沢内閣の支持率も三〇パーセント前後なのですから、自民党にすれば、「目減りをどこまで減らせるかが勝負」とならざるをえません。

じゃ、野党はどうかといえばみなさんもよくご存じのように、もうメロメロです。民社は同盟の解散でもっとも強力な支持基盤を失いました。そればかりか自民党支持基盤の動揺と崩壊の結果、自民党は会社をつうじて民社に割り当てていた票まで、とりこもうと今では躍起です。ですから民社党が伸びることは考えられません。すでに政党の体(てい)をなしていないのが民社党の実態ですが、大内委員長のはらは、「政党の体をなしている今のうちに、できるだけ高く売りつけよう」というものです。

公明党も例の宗門戦争でガタガタです。創価学界のドン池田氏も創価学界を守ることが精一杯、とても公明党を支援できる状況ではありません。私の家の近くにも創価学界の集会所があります。五、六年前まではなにか行事があると、周辺が車で埋めつくされたものですが、今日ではその活力はありません。ですから、ここも防衛で精一杯、とてもふえる状況にはありません。

共産党も同様です。ソ連・東欧の崩壊は私たちにとっても毎日がかつてない困難をもたらしています。共産党の諸君は、「天安門の時にくらべれば」と強気ですが、やはり容易じゃないと思います。『赤旗』で毎日のように「なぜ党名変更しないか」とのキャンペーンをやらなければならない状況のようですから。さらに、全労連という共産党直属の労働組合

センターをつくったことが、彼らの宣伝活動の余地をせばめ、労働者票を小さくする大きな要素にもなっているようです。

そして社会党といえば、これまで論じてきたとおりの状況で、社会党が単独で勝たなければならぬところ、たとえ負けても社会党らしさを示し、次に備えなければならない戦略拠点で、連合に身売りしてしまったとしか言い様のない事態が数多く出現しております。社会党を信じ選挙のたびに社会党に投票してきたもつとも熱心な支持者が、これは選挙民を愚弄するもの、"社会党らしさを貫け"とイラダチを隠していないことにもあらわれています。

こうしてみると、"強い党" "勝つ党" がいないということになっちゃう。

勝てるのは連合だけ?!

A そこで連合がもてはやされる、マスコミの寵児になるというわけだ。ところで、マスコミがいうように、連合は本当に勝てるのかしら。

司会 私は疑問だと思う。だけど、国民には根深い自民党批判がある。それが連合候補に流れるのではというのが、"連合人気"の背景だ。

A 自民は一時、連合批判を強める動きを示したね。"連合には政策がない。寄せ集めの積木細工で国民を愚弄するものだ"と。ところがいつの間にか消えちゃった。

B 理由は簡単なんだ。国会でPKO法案が論議されている。PKO法案を通すことにもつとも熱心なのが連合の山岸さんなんだ。山岸さんだけが表に出ているが、JC系組合幹部や旧同盟は自民党以上のところもあるんだ。なにしろ、日本の海外投資残高は二兆ドルをこえようかという勢いだし、外国にいる日本人は五十万人をこえている。しかも、中南米諸国で顕著だが、日本人がテロや誘拐の対象となっている。彼らにすれば、身の安全をどうするか最大の関心事なんだな。現地の警察も軍隊も腐敗してあてにならない。だとすれば、身内の自衛隊に頼るしかないわけだ。しかも、現地住民と在留邦人の生活格差はすさまじい。これは見過ごすことのできない問題だよ。

それはともかく、参院の状況は司会が話したとおりだから、自民党にしてみればPKO法案を通すためには、連合の協力も必要になるかもしれない。そのためには、全面衝突だけは回避しておいた方が得との判断なんだ。

A 自民党は「自公民」プラス「連合」をの図式を考え始めたってわけ?

B そうです。

A 今、Bさんは「身内の自衛隊」とおっしゃったが。

B 自衛隊と大企業、とりわけ軍事関連企業の交流、人事のつきあいはいはものすごい。電機なんかが典型だが退職自衛官を採用してる。

A その連合の流れのなかに、前回も論議になったが、「朝日」が大きくとり上げた自治労の動きがあるってわけだ。

自治労の現場は健在

C そう考えて間違いない。一つは自治労の意識調査、もう一つが自治労の安保、自衛隊問題への見解(前号参照)だ。春闘前後、私はあちこち旅したが、自治労の現場は鋭い危機感をもってる。"現場は健在だ"と安心したのだが、その現場の声をどう上にあげ、自治労らしさを発揮させるか、悩みは大きいとの印象です。

連合の主流組合は目下、J・C・十全電通。非主流組合が自治労、教組、私鉄、機械金属、全林野党とぼくは考えている。主流組合は「自衛隊合憲論」なんだ。P・K・O法案にはむろん賛成。自治労は連合で最大の組合です。組織人員は百万人ですからね。しかも、社会党最大の支持組織です。その自治労が連合主流にすり寄ったときの影響は、おそらく想像をこえる動きを日本の政治動向に与えると思う。なにがなんでも自治労の仲間には、従来の考え方を貫き通して欲しい。そのため、できることをなんでもやって欲しいんだ。

D 参院でP・K・O法案の審議が始まったとき、国会で自民党の議員が、「あの自治労だって最近では大きく変わってる」と、声を大にしていたね。

C 自治労の意識調査に注目したのは、われわれだけじゃない。自民党もそうなんだ。彼らにすれば、社会党攻撃の絶好の材料を得た気持ちだと思う。自民党の機関誌『自由民主』四月号で、さっそくとり上げている。見出しは、「アンケート結果に仰天の社会党」というものです。

D この調査結果は、おそらくこれからの自治体労働者対策の重要資料として、自治省や政府自民党が利用することになると思います。私の友人にも自民党員で研修会にも出席する人がいますが、彼らの目的は自民党の最高幹部とゴルフすることです。そこで人間関係をつくって、利権への距離をできるだけ縮めたいというわけですね。

しかし、官僚や政策マンはちがいますね。よほど型破りの人でなければ、けっして本音をあかしません。きれいな言葉でいえば冷徹ということになるんですが、ハッキリ言えば「人間じゃない」ということです。国会での政府委員の答弁はまさにそれでしよう。

自民党が、この自治労調査をみているかは、私たちが考える以上に重要だと私は思うのです。『月刊自由民主』を読んでいる人など、ほとんどいないでしょう。自民党員ですら、ゴミ箱へポイだもの。ですから、参考の意味で、Cさん、全文というかポイントを報告していただくといいと思います。

自治労意識調査と自民党

C わかりました。じゃー、自民党がこの調査をどう解釈しているかを、より詳しく知っていただくために、少し長くなりますが、ポイントと思われるところを読み上げます。

「まず支持政党についてみると、社会党が二四・二％と当然ながらトップ。二位は自民党の一〇・六％。

また『支持政党なし』と答えた人のうち『革新系』は一九・一％、『保守系』は一五・五％で、自民党と保守系を合わせると、二六・一％になり、組合員の四人に一人が自民党を含む保守系支持という結果が出ている。

若年層ではここ何年もの間、政党離れが進んで、『支持政党なし』が圧倒的に多いが、二十代前半の男性（事務、技術職）ではわずかながらも『自民党支持』が『社会党支持』を上回っていることが注目される。

また、この若年層（二五～二九歳）では、高学歴層ほど『社会党支持』が減って、『保守支持』が増えており、大学卒・大学院修了者では『自民党』支持が一五・〇％とトップで、『社会党』の九・九％を大きく上回った。この『自民党』に『支持政党なし・保守系』の二六・五％を加えると、大学卒・大学院修了者の四割が保守系支持という、社会党にとっ

ては深刻ともいえる結果となっている。

調査では、『支持政党なし』層に『あえて支持するとした』場合について回答を求めたが、

この『あえて支持する政党』と先の支持政党を合わせた『広義の支持政党』をみると、社会党が三九・二％とトップで、次が自民党の二三・一％と、支持政党と同様の結果になっている。

ところが社会党にとって問題なのは、この『広義の支持政党』を若年層に限ってみると、自民党支持が社会党支持を上回っていることだ。

『広義の支持政党』では、男性では二九歳以下の年齢層は『自民党支持』が三五・五・三三・四％なのに対し、『社会党支持』は二八・四・二一・六％。女性でも二四歳以下の年齢層が『自民党支持』三三・五％なのに対し、『社会党支持』は二三・一％と下回っているのだ。

この結果を見る限り、若い人たちは、いまの社会党から確実に離れていっている、とみていいだろう。

一方、連合政権に関する回答では、自治労組合員の約七割が政権交代を希望している。

それでは長期にわたる自民党の単独政権に代わる今後の政権の在り方については、『自民、社会、公明、民社、社民連による連合政権』が最も多く二三・五％、次いで『自民党、社会党による連合政権』が二三・二％で二位、『社会、公明、民社、社民連による連合政権』が一〇・九％、『社会、民社、社民連による連合政権』が八・三％、『社会党、共産党による連合政権』が六・九％などの順となっている。

つまり『社会党と自民党を含めた連合政権』を希望している組合員が四六・七％と半数近くを占め、自民党を含まない『社会党を中心とした政権』を望む組合員の三一・一％を上回っていることになる。

この結果をどうみるかは、自治労ならびに社会党自身の分析を待った方が良いかも知れないが、社会党中心の政権よりも自民党を含む連合政権を希望していることは、組合員の現実重視の姿勢がいみじくも鮮明になったとみることができ、いまだに現実的で柔軟な政策への転換ができていない社会党に対する疑問が反映されているということができよう。

また、この調査では、自治労や社会党が認めていない自衛隊の海外派遣についても回答を求めたが、その結果は『災害救助など非軍事的支援に限る』（四七・八％）、『国連指揮下での軍事的役割は認める』（一五・五％）などと、自衛隊海外派遣の『容認派』が六割以上に達した。反面、『海外派遣はすべきでない』は二八％と三割にも満たなかったのである。さらに国連平和維持活動（PKO）への参加についても七割が認め、うち二割が武装を容認している。

社会党の最大支持労組の組合員がこうした柔軟な考え方を持っていることを、社会党はある種の衝撃をもって充分に認識する必要がある。一般の組合員は、現実をより肌で感じ、柔軟に意識改革を進めているのに比べ、明らかに社会党は遅れをとっているのだ。」

D ようするに、労働組合員の意識は変わりつつある。社会党はそれに遅れをとっている。だから、社会党の基本政策を見直しなさい、というわけですね。

C とりわけ、傍線した部分に注目していただく必要があります。

D 意識調査というのは、教育宣伝の効果をたしかめるものでしょう。政府の調査はつねにそうです。自治労さんにして、先日新聞で見ました全電通さんにして、組合員を正しく教育した結果なのかしら。

C 自治労はともかく、全電通は逆です。まじめな社会党支持者が、社会党を支持したく

なくなることはやりやっている。その典型が「社会党改革」という名の「自衛隊合憲論」の押し付けです。ですから社会党支持率は急激に低下する一方、「社会党改革」にも不信感がひろがっている。

D 組合員は幹部の教育も信用していないということですね。

C そういえると思います。

D 労働組合の役割は常識というものを、正しくないものから正しいものへ変えることでしよう。世間の常識が「国際貢献」、それも自衛隊をふくめたというものになびき始める傾向にあるからといって、それにくみすることではなく、その世間の常識を変える努力をすることではないのですか。

社会党再建が世直しへの第一歩

C しかし、間違った常識から社会党に圧力をかけつづけているのが連合だ。

B 社会党の名誉のために一言申し上げますが、社会党内の多くの党員はいま身体をはって社会党の右傾化反対にたち上がり始めています。五月二六日の集会もそうですし、資料1で紹介した党建協の連合への申し入れ、あるいはまた資料2、3の田辺委員長、山花書記長への「申し入れ」がその一端です。

社会党がたいへん深刻な状況にあるだけに、私たちにもっと力を貸してよ。五月二六日の集会に多くの人をさそってよ。そして社会党を建て直そうよ。

司会 Bさんのおっしゃるとおりだ。これから世の中の動きはもっとはやくなる。高い波と低い波が交錯し合わずにはおきません。歴史は面白い状況にあるのですから、「歴史をつくる」気概が必要だと思う。その一歩を社会党の再建からはじめなくちゃ。

次回は今なぜ政界再編なのかに話をすすめていただきたい。

(つづく)

資料1 党建協代表委員(九二年五月六日)

外交・防衛問題についての連合への申し入れ

申し入れの趣旨

一、労働者の組織である連合の最高責任者として、明らかに軍隊であり戦力であって違憲の存在である自衛隊を、合憲だなどと曲解しないでいただきたい。

二、「国連平和維持活動(PKO)協力法案は社会党が何と言おうが必要だ」などという海外派兵必要論に立つのではなく、平和憲法に立脚して日本が世界になすべきことを追求していただきたい。

三、PKO法案をはじめ自衛隊海外派遣三法案と小沢調査会答申とは、平和憲法と民主主義を危機に陥れるものであり、労働者にたいする重大な挑戦であると受けとめ、連合も憲法擁護と海外派兵立法粉碎のたたかいに社会党とともに立ち上がっていただきたい。

四、市民や農民や未組織労働者を含めた広範な国民の期待を担う政党である社会党の政治方針に対して、連合の視点からの考え方を押しついたり、議員候補に連合方針で誓約書を書かせるようなことは遠慮していただきたい。

五、政党と労働組合の主体性と自律性を互いに尊重するとともに、一致できる領域での闘いを拡げ、強化するよう努力していただきたい。

申し入れの理由

一、全国一七二人の憲法学者に新聞社が昨年十一月アンケート調査を実施した結果によると、八割の憲法学者が「憲法解釈上、日本は平和維持軍（PKF）に参加できない」と考えている。政府案にいう「武器使用は生命身体防衛のため必要最小限に限る。武力行使に踏み込む場合は維持軍から撤収」との条件をつけられればPKFにも参加できる、と考える学者はたったの四％しかない。合わせて聞いた国際貢献策についての意見では、「平和憲法を生かして軍縮を推進し、医療・経済協力などを充実させるべきだ」などの回答が目立った。「憲法に照らして、自衛隊はそもそも違憲である」とする学者は八割を占めている。国際緊急援助隊派遣法改正案については、「援助隊への自衛隊の派遣は憲法上許されない」とする学者が七四％である（朝日新聞一九九一年一月一八日）。

二、国連への協力であっても、日本が国際的な活動への参加問題に関して判断基準とされるべきは、何よりもまず平和憲法である。憲法は前文や第九条で、①一切の軍隊（軍事要員）の不保持（＝海外出動禁止） ②一切の戦争と武力行使の禁止 ③戦争や武力紛争の渦中に巻き込まれることの禁止——を定めている。このような憲法原則に抵触する形でPKO等への参加は、断じて認められない。したがって平和維持軍や停戦監視団への要員の派遣を認めることはできない。これこそは悪質な解釈改憲を積み重ねる前には政府もとっていた、憲法の本旨に基づく正しい考え方である。

三、ブッシュ米大統領の「新世界秩序」と称する軍事力を中心とした一極支配体制がつけられ、国連も重大なことは総会ではなく安全保障理事会によって決められ、多数の発展途上諸国の意見が軽視されている現状では、国連の名のもとに行われることが必ずしも正義とはいえない。八年間も米司法長官のポストにあったラムゼイ・クラークが、湾岸戦争はアメリカによって仕組まれたものであり、ブッシュ大統領こそが湾岸戦争における最大の戦争責任者であり戦犯であるとして国際法廷で告発していることから明らかに、国連の名のもとに行われる軍事行動そのものにも重大な問題がある。

四、従来PKOは、侵略国や軍事大国ではなく中立的な国の軍隊によるものである。かつての侵略や虐殺にも、強制連行や従軍慰安婦にもきちんとした謝罪と補償措置すらしていないまま、今や世界第三位の軍事費をもって経済的ばかりでなく再び軍事的にも大国となっている日本が、どのような名目であれまた軍隊の海外派遣を開始することは、アジア諸国民を耐えがたい不安と苦痛におとし入れずにはすまない。ミッテラン仏大統領やサッチャー前英首相さえも、日本の自衛隊派遣には賛成できないむねを述べている。

五、「国際災害救助」に自衛隊が出動することになれば、「在留邦人救出」への出動との間に越えねばならない垣根はなくなる。この「在留邦人救出」こそは、幾多の海外派兵と侵略戦争開始の口火とされてきたところである。国際緊急援助隊派遣法はすでに一九八七年にできていたのに、政府自民党は、自衛隊の海外派遣を国民に認めさせたいばかりに、かねがね国際緊急援助隊をきちんと組織し訓練することをわざと怠ってきた。そもそも雲仙でも必要なのは、軍隊ではなかった。災害救助等のための組織を常設し、訓練を積んでいけば、その組織こそが国内外で活躍できるのであって、武器も人殺しの訓練も本当は少しも必要ではない。

六、人間のいのちこそはすべてのものの上におかれるべきであり、かけがえのない地球環境と資源は保全されねばならないという立場から見ても、いかなる戦争も、軍隊を使う「国際協力」も、武器の輸出も、平和憲法をもつ日本こそが率先して悪として否定しなくてはならない時代を迎えている。ソ連等が大幅な軍縮に踏み切った今日、日本は大胆に軍

縮を推進することによって世界の全面的な軍縮と不戦と飢餓等の救済を促進するとともに、非軍事・文民・民生の協力によって武力紛争を未然に防ぎ、起こった国際紛争は平和的に解決することが必要になっている。非核三原則や武器禁輸原則の国際化、アジアにおける不戦憲章の締結なども重要な課題となっている。

七、飢餓・貧困・難民の救済、国際災害救助、地球環境保全、国際開発協力、PKOなどの国際協力については、非軍事・文民の独立組織を早急に創設・拡充し、積極的な活動を開始すべきである。そのためにも自衛隊の併任や休職・出向ではなく、自衛隊の縮減を実現し、その予算と退職・非武装化した人員・機材などをその国際協力組織に充当すべきである。平和国家の初心に立ち戻って、これら本来の国際貢献策に真剣に取り組むことこそが、日本が「国際社会において名誉ある地位を占め」（憲法前文）するための最良の道なのであって、PKOへの参加などを口実として、自衛隊の海外派兵を強行することでは決していない。

八、政府自民党は急増した大企業の海外進出とともに、かつてのように軍事的進出をも開始して権益を擁護すること、軍事力の活用によっても国際的地位を高めたこと、「ソ連の脅威」が雲散霧消した後でも軍縮をせずに軍拡を推進する大義名分を確保したいこと、のために自衛隊海外派遣の実績作りと派遣目的の拡大に懸命である。そのためには平和憲法とそれを擁護する社会党が邪魔になっており、社会党の基本政策を変えて改憲阻止のエネルギーを消失させてしまうことが財界と政府自民党の最大の課題になっている。政界再編の動向もそこ起因しているのであって、社会党も労働団体も決してこの策略にのせられて悔いを千歳（せんざい）に残すようなことになってはならない。

日本労働組合総連合会 会長 山岸 章 殿

資料2 憲法を活かす世話人（九二年五月一三日）

政府のPKO法案を廃案にするための

緊急なとりくみに関する意見

いよいよ、PKO法案の審議が重大な局面を迎えようとしています。政府・与党、さらに一部野党までも加わって、憲法第九条などに関する解釈を歪め、また参議院決議にも背いて、武装自衛隊の海外派兵という重大な政策転換を「国際貢献」の名のもとに進めようとしています。これは、法治国家としての基本にもとる行為であるとともに、先の大戦における戦争責任を果たしていないこととあいまって、国際的にも十分な理解と支持を得られない方針といわねばなりません。

このような政府案や自公民修正の動きに対し、社会党委員長として左記の行動に緊急にとりくまれるよう要望いたします。

記

一、田辺委員長は、非軍事・文民・民生の立場に立った国際貢献のため、社会党案の原則を生かすよう全力を挙げて努力し、あらゆる機会を通じて政府および他の政党に働きかけ、これらの経過や結果に関し広く国民に公表することによって、世論を喚起するようすること。

二、右のとりに際し、次の二点についてとくに留意すること。①自衛官の「休職・出向」は、姑息な違憲隠しであるばかりでなく、自衛隊とは別個の「常設組織」の創設を

放棄することを意味し、また軍縮の効果を期待することもできないこと。②文民によるカンボジアの支援は、現行法のもとでもかなりの分野で実行できること。

三、政府・自民党が田辺委員長による一、の提案を拒否した場合には、牛歩戦術など物理的抵抗を含め、あらゆる手段をつくして廃案をめざすこと。

四、衆参の選挙においては、政府のPKO法案や自衛隊の海外派兵に賛同する候補者について公認または推薦しないようにすること。

五、以上のとりくみについて、直接市民に訴える連日の街頭宣伝や大衆行動との合流を企画し、田辺委員長自らその先頭に立って行動すること。

日本社会党中央執行委員長 田辺 誠殿

資料3 党建協の申し入れ(九二年五月一四日)

腐り切った自民党と全力あげて対決を

一、PKO法案をはじめ自衛隊海外派遣三法案と小沢調査会答申とは、平和憲法と民主主義を危機に陥れるものであり、勤労国民と社会党にたいする重大な挑戦であると受けとめ、書記長は率先して憲法擁護と海外派兵立法粉碎のたたかいに全力を挙げるとともに、会党的に取組みを強化するよう、指導してください。

二、「休職・出向」や、「一時退職」を含めて自衛隊の海外派遣は許さず、あくまでも正式に退職した自衛官は受入れることのできる常設の非軍事・文民の組織をつくり、軍事予算を削減してこれに充てるなど、社会党案の旗をおろすことなく、趣旨が貫徹できるようにご奮闘下さい。自衛隊が休職・出向であれ、ひとたび組織的に派遣されることとなると、政府自民党や財界が次に何をしようとするかは火を見るよりも明らかです。しかも文民の常設組織はつくりたくないし、軍縮にもなりません。

三、この憲法と戦争と平和にかかわる歴史的で重要な問題では、他党や労組幹部の働きかけによって動揺したり、節を曲げたりすることなく、国民に判り易い毅然とした闘いを貫いて下さい。そのことこそが社会党にたいする国民の支持と信頼を高め、海外派兵に歯止めをかける今後の闘いにおいても、また各種選挙においても、勝利につながるからです。

四、自公民のテーブルから外れた名誉ある孤立は少しも悪いことではありません。先般の韓国の総選挙でも示されたように、「野合」与党」は国民の「しっぺ返し」(朝日新聞三月二六日)を受けずにはすみません。イギリスの総選挙における労働党の「意外な敗北」の原因は、「党内左派勢力を締め出し、現実路線を進め」たこと、政府・与党との違いが明確でなくなり、……蓄積のある与党にまかせた方が危ない、との有権者心理が働くようになった」(日本経済新聞四月二七日)ことにあります。

いまや自民党は金権腐敗の極に達しているばかりか、憲法を蹂躪して頹廢のきわみにあります。三年前の参院選の敗因を想起しても、わが党が政権党に向けて躍進するに必要なのは、「野合」でも「現実路線」でもありません。かくも腐りきった自民党と、国民の眼前で全力をあげて対決し、海外派兵と解釈改憲・明文改憲を阻止するために先頭に立って闘い抜いて下さい。

新たな世界に、古い動き

——ペルー・フジモリ大統領のクーデター——

花子 「フジモリ現象」ってなに？

太郎 やぶから棒になんだ。どこで習った？

花子 新聞で見たのよ。

太郎 花子も新聞みるの。テレビ欄だけかと思ってたよ。

花子 失礼しちゃうわね。私だって新聞くらい読むわよ。だってもう成人なんだもの。

太郎 ごめんごめん。花子を見直したよ。じゃー、しっかり新聞を読んでもらって、これから、世界の動きについて勉強しようか。

花子 お父さんもしっかりね。私のこと子供だなんて馬鹿にしたら、ヒドイめにあわせてあげるから。

新聞は知識の泉

太郎 その心意気だ。世の中に評論家がウジャウジャいる。だけど情報源はみんな新聞なんだ。

花子 外国のことを専門にしている人も？

太郎 そうだよ。国外紙をとってる人は少ない。

花子 だって知ったかぶりして、なんでも答えてるじゃない。

太郎 よく勉強してる人もいるよ。だけどそんなに多くない。ほとんどが日本の新聞からの知識だよ。

花子 そうなの。私も新聞をよく読めば、評論家なみになるってわけね。じゃー、がんばろうっと。

古典で社会の法則を

太郎 新聞記事を読みこなすには、もう一つ条件があるんだ。政治や経済の基礎について、しっかり古典を勉強することなんだ。

花子 そういえばお父さんの本棚にはマルクスだとかエンゲルスだとか、レーニン、それになんだったけ…

太郎 ヘーゲルだろ。

花子 舌をかみ切りそんな人の書いた本がならんでるわね。

太郎 学生時代にはよく読んだよ。ノートをとってね。昔はこれでも勉強家だったんだよ。

花子 マア、信用しとくか。古典って、そんなに重要なのかしら。よくわからないわ。

太郎 今年はコンプスが「アメリカ大陸」を発見してから五百年だ。

花子 知ってるわよ。世界でイシクニって習ったもの。

太郎 お父さん達の時もそうだった。年代ばかり暗記させられて。歴史の勉強が面白くなかったよ。

NHKテレビでもやってるけど、「コンプス五百年」の本がたくさん出てる。いくつ

か買って読んでみたんだが、出所はすべて『コロンブス航海誌』なんだ。

花子 どういう本なの？

太郎 バルトロメー・デ・ラス・カサスという神父がコロンブスの航海に同行し、記録した本で、コロンブスの記録はこれしかないんだ。だから、「コロンブス学者」も評論家も、これにもとづいて書いたりしゃべったりする他ないんだよ。

花子 じゃー、神父さんがまとめたという『コロンブス航海誌』を読めば、私も「コロンブス学者」なみってわけね。その本どこから出てるの？

太郎 岩波文庫だ。

花子 買って読んでみようかな。

太郎 はよしその意気込みだ。

泡沫候補が大統領に

太郎 花子の最初の質問にもどうか。

花子 「フジモリ現象」ってことよ。

太郎 二つあるんだ。「フジモリ」さんがペルーで大統領選挙にうって出たときは、泡沫候補だった。そのフジモリさんがあれよあれよという間にペルーの大統領になっちゃった。世界がビックリ仰天したのが第一ね。

二つは、フジモリさんは「私は貧しい者の味方だ」と選挙をたたかい勝った。ところが大統領になるや否や、貧しい者をさらに貧しくする政治をやり始めたんだ。そして四月五日だったかな「アウト・ゴルベ」、日本語でいえば「自主クーデター」とでもいうのかな、それをやっちゃった。軍と警察の支持のもとでね。

アメリカや日本は、当選のはじめフジモリさんを警戒していたのだが、大統領になってからのフジモリさんにはすっかり安心していったんだ。日本にも三回来たよね。一回めは当選してから三週間後の九〇年七月一日。このときの目的は一八億ドルのお金を貸してくださいというものだったんだ。しかし、日本政府は首をたてにふらなかった。

二回めは米州開発銀行の総会が名古屋でおこなわれた昨年だ。日本は五億ドルの援助を約束したんだ。そして三回めが今年の三月。「アウト・ゴルベ」の直前だ。この時、日本政府は約一億ドルの援助を約束したんだ。それから一週間後に「自主クーデター」だろ。日本政府はビックリしたと思うよ。

花子 フジモリさんがなぜ泡沫候補だったの。

太郎 ペルーには現在、三つの有力政党があるんだ。つい最近までAPRA（アメリカ人民革命同盟）という政党が、たいへん安定した力をもっていたんだ。ところが一九八五年以降、アラン・ガルシアという大統領が突然、アメリカや世界の銀行家にさからい始めたんだよ。借金を返さないって。

ガルシアさんのこの方針はペルー国民の支持を受けたんだが、ハラの虫が納まらないのは、APRAという政党のなかでアメリカや日本などの先進資本主義国と仲良くしたいという人たちなんだ。知識人を中心にこういう人たちが八九年、民主戦線（FREDEMO）という政党をつくったんだね。その結果、APRAが分裂し、九〇年、フジモリさんが大統領になったとき、議会の勢力比は日本でいう参院にあたる上院がFREDEMO二〇人、

APRA一六人、そしてフジモリさんの選挙母体のカンビオ九〇——「カンビオ」とは日本語で「変革」ということなのだが——一四人。衆院にあたる下院ではFREDEMOC六二人、APRA五三人、カンビオ三二人だったんだ。

いわば社会党のような少数野党から大統領候補として、フジモリさんが出たわけだ。常識では当選の見込みはなかった。ところが、フジモリさんが当選しちゃった

花子 フジモリという人は、選挙戦でどういうことを主張したの？

太郎 「カンビオ九〇」のピラには、「コントラ・ラ・インファミア、コントラ・ラ・カルミニア」というのがある。「不正と中傷に反対」とのスローガンだ。これが、ペルー国民にうけた。一言でいえば、既成政党ダメといったわけだ。

日本でも花子たち若者は自民党を信頼してないだろう。

花子 オジン政党の自民党はもちろんダメだけど、社会党などの野党もダラシなさすぎるわね。魅力ないもの。社会党のいちばんえらい人の名なんか知ってる人、私の友だちにはだれもないわよ。土井さんなら知ってるけど。

太郎 花子みたいな人がみんなフジモリさんに投票したんだ。

花子 信じられない。私、ゼッタイ……。ペルーってどういう国なの？

先生の賃金は八千円

太郎 中南米は貧しい国なんだ。とりわけ貧しいのが、中米四国と南米のペルー、ボリビアという国だ。花子はアルバイトしてるだろ。時給いくら。

花子 千円。

太郎 じゃ八時間で八千円になるわけだ。ところでペルーの学校の先生の給料はいくらだと思う。

花子 ウーン、二〇万円くらいかな。

太郎 八千円。

花子 ウッソー、信じられない。

太郎 これが事実なんだ。新聞には書いてなかったらうけどね。しかも、国民の八〇％が失業状態なんだ。その先生たちもいま失業中。国も自治体もお金がなくて義務教育すら廃止されてるんだ。

花子 じゃー、ペルーはみんな失業者なの？

太郎 そういうこと。花子には信じられないかもしれないけど。これが世界の遅れた国の現実なんだ。

花子 信じられない。

太郎 しかしそうなんだ。アフリカ、中近東、アジアなんてのも同じだよ。

花子 さっき、お父さんが日本はペルーに五億ドル援助したといったけれど、そのお金はどう使われるの？

太郎 借金の支払い、ペルーという国は約二百億ドルの借金があるんだ。利率が七％として、利子の支払はいくらになる。

花子 エーと……一四億ドル。五億ドルじゃぜんぜんたりない。国民生活の向上に使われるんじゃないの。

太郎 そうじゃない。

花子 ヘー。

貧しい者の味方のハズが

花子 さつきお父さんは、フジモリさんは大統領になったとたん、「貧しい者の味方とい

いながら、そうじゃない政治をやり始めた」といったけど、それはどういうこと。

太郎 ペルーは借金でクビが回らなくなった国なんだ。だとすれば、生活を切りつめる以外にない。しかし、ごく一部の金持ちのはじつに裕福なくらしをしてるんだ。他方、地方の貧しい人びとはコカの栽培にたよらざるをえない。

花子 コカって麻薬のこと。

太郎 そう。ペルー最大の産業といってもいいだろうね。黒幕はアメリカのマフィアだけどね。

花子 そのフジモリが何を始めたの。

太郎 国を再建するには、貧しい人にも犠牲になつてもらふ以外にないと。緊縮政策を始めたんだ。

花子 「緊縮政策」って？

太郎 家計を黒字に変える政策のことだよ。花子は何をおもい浮かべるかい。

花子 私の小遣いが足りなければ生活を切りつめるか、国にすればお金を出すところに出さないですませるか、もし収入をふやすとすれば物の値段を上げる以外にないわよね。

太郎 そのとおり。フジモリさんはそれを全部やり始めたんだ。だから、「貧しいものの味方」って思って、はじめは警戒していたアメリカや日本といった金持ちの国も安心したってわけだ。

クーデターを民衆は支持

花子 そのフジモリさんが「アウト・ゴルベ」をやったつてのは、どういうわけなの。

太郎 フジモリにたいする F R E D E M O、A P R A の抵抗がすさまじかったつてことだろうな。前にもいったけれど、フジモリの基盤は、国会にはない。完全に少数派だからね。フジモリは民衆の支持で当選したんだ。しかし、民衆に犠牲を強いる政治をおこなっている。いずれ、民衆から見放されることはわかるね。それで一挙に「私は民衆の味方、しかし私のことを既成政党は理解しようとしなさい。民衆の味方でありつづけるためには、これまでペルー政治を腐敗させてきた既成政党、官僚、司法組織を解体する以外にない」と。アウト・ゴルベにふみ切ったと思う。

花子 フジモリさんは国民から支持されてるの？

太郎 八〇〜九〇%の国民が支持してるつてことだ。まず軍と警察、そして貧しい国民たち。フジモリに反対しているのは知識人と既成団体の幹部だけのことだね。

フジモリもそれをよく知っていて、F R E D E M O、A P R A の国会議員や金持ちたち、貧乏人を苦しめた司法界のしゅく正を強めている。それがまた国民のフジモリへの人気を高めるといふ結果をもたらしているようだ。

花子 中南米で生きていくには、アメリカの支持が必要なんでしょう。そんなことを聞いて

たことがあるわ。

太郎 中南米はアメリカの権益地だからね。「アウト・ゴルペ」の時、アメリカはすさまじく反ベルー的で、今にもフジモリ政権を打倒するかのような雰囲気だった。援助を停止する宣言を発したり、OASという自前の組織をベルーに派遣したりしてね。

ところが、フジモリを民衆が支持していることが明らかになるにつれ、アメリカの態度は微妙にゆれ動いているってことかな。最近ではフジモリ批判をほとんど口にしなくなった。

花子 日本政府はどうなの。

太郎 はじめから同情的だ。とくに外務省はね。浪花節的人物が外務大臣になったからでもないのだろうけれど。「フジモリは民主主義をいつている」というのがその理由だ。

花子 民主主義さえいえば、なんでも支持するの？ それはへんだわよ。

太郎 フジモリの支持基盤はもう一つ、財界なんだ。財界といっても日本のトヨタや新日鉄のような大企業じゃないよ。ベルーのGNPはトヨタの年間売上高の二分の一強なんだから。

フジモリは日系人ではじめての国家元首だし、ベルーの財界にすれば、フジモリをテコに日本から金を引き出したいとの思惑もある。そこいらへんはひじょうに複雑だ。

二人の大統領が並立

花子 ところでベルーはこれからどうなるのかしら？

太郎 むずかしいね。FREDEMOやAPRAはフジモリに真っ向から対立し、サンロマン副大統領を「大統領」にした。しかし彼には国民の人氣がないんだ。だから、アメリカも及び腰でサンロマン支持とはなかないえなんだ。最近では日本政府同様「ようすを見る」との態度に変わり始めた。

フジモリを国民が支持するのは、「彼はおれたちの生活をカンビロ（変革）してくれる」との期待なんだ。ベルー国民にとっては痛切な願いなのだろうが、ほとんど不可能だ。だから、もうしばらくして国民がフジモリにどういう態度を示す始めるか、そのときがポイントになると思うな。

花子には少し難しいと思うが、こんどの「フジモリ現象」は冷戦終結後の世界のゆくえを考えるうえで、じつに興味深い出来事なんだ。もしソ連・東欧が健在だったら、フジモリは「ソ連、キューバの手先」とのレッテルをはられ、大統領には当選しなかったろうし、大統領になつてからであつても民衆を基盤にクーデターをおこせば、同じ方法ですぐにCIAやアメリカ軍が動いただろうからね。「冷戦構造」の終焉が中南米にあらたな動きをまきおこしたというわけだ。これから、こうした動きが続発すると思うよ。

花子 私にはわかんない。

太郎 これから徐々に勉強すればいいことだ。アキノさんの国、フィリピンでも選挙は近いし。少し、フィリピンのこと勉強しておいてよ。

花子 お父さんの期待に応えるようがんばるわよ。

◆ 武井廣司さんに聞く② ◆

岩井さんの魅力、あれこれ

岩井さんの魅力？ 彼が二五歳で県会議員に立候補したときからの付き合いだからね。二五歳にして県会に打って出てね、いい勝負だったよ。そりゃあね盛り上がりつつあってね。ものすごい、そりゃあ闘いをしたんだよ。相手が、とにかく県会の副議長をやるくらいの大物でね。県会をやめてすぐ諏訪市の市長になったんだ。小松ナオジってね。そりゃあいい勝負したです。二五歳で、資格があるかないかでね。当時うるさかったんだ、わざわざ県庁まで飛んでね。そして間に合わせたの。締め切りストレスレクらしいのときにものになったの。いま考えてみりゃあのととき県会議員なんかにならなくてよかった。

いや岩井さんの魅力ったらほんと、選挙に打って出ないことだよ。これも一つの魅力だね。それを党員として今日まで押し通してきたからね。大概の者は何かの機会にひょいとこの決心が変わるもんだよ。最初は拒否していてもね。やあ、あれが出ていった、これが出ていったなんてやってくるよとし俺もとかね。何かしらやっぱ動揺するよ。あの人は動揺しないね。うん、なにを言われても動揺しないね。

まず面白いだよ。ここに国労の出身で青木薪次っていう参議員がいるんだよ。こりゃあ国労静岡地本の委員長から転向していったんだがね、もう今年で三期一八年くらいやってるよ。これがまた今、羽振りがよくてね、どこへ行ってもやあやあなんて、ボクのところなんか「やあおじさん、いつもいつもご苦労さん」なんてやるけど、ひとたび岩井さんの前に行くとな、え、やあ岩井さんが「ってみんな見て笑うだよ。「おい見ろよ、岩井さんの前にいくとああだ」と。なるほど、あれが岩井さんの、何というか普通の人のもつていない何かあるんだな。岩井さんは黙っていて、とにかくあれだけ参議員三期もやって押しも押されもしない、議会で代表質問をどんどんやるような人物でも、岩井さんとこへ行けばああやって軽々しくものを言わないしね。

そしていつか岩井さんがこういうことを言った。岩井さんはどうして選挙に打って出ないだといったら、「選挙に打って出る者は、とにかく街角に立っているポストに自然と頭を下げてくなるような人間でなければ選挙にならない」「俺にはあれがどうしてもできないそんな者は選挙に向かない」とね。自分でそう言い聞かせてあると言っただけね。なるほど、街角のポストに頭を下げなければ選挙ならんわ。俺の性格はそういう性格じゃないといってね、きちんと決めているからね。信念がある。

そしてね、そんなふうだからモノにこだわらない。でね、ボクはどっちかという毒舌家だね。こういうことがあったの、岩井さんと。ボクはジャイアンツがだいっ嫌いな。どっちかという笠に着てモノを言うような、こんなペーペーのがその気になっていてね。ジャイアンツの元木なんてのがいいあれだ。原だつて入りたてはそうだ。桑田も江川も。ところがね、岩井さんときたらもうジャイアンツが負ければ飯がまずい、ね。ところがボクがたまたまね、ジャイアンツをくそつこなしにこなしただよ。そしたら岩井さんがムッとしてね、「武井さんは人が嫌うようなことを、わざとそういうようなことを言うのはあんまりいいことじゃない」という。こりゃあえらいご機嫌を損ねちゃった。こりゃあ気を付けなけりゃいけない、そうだ岩井さんの前じゃジャイアンツの悪口言ったじゃ、言う方がおかしい。それでね、われわれじゃそこそこの切り換えがね、なかなかできないんだよ。もうね、一時間がたつたかたないうちにそんなことあったかてな顔してるんだよ、うん。

ボクそれもあの人の魅力だね。こだわらない、要するにこだわらなきゃならないことと、こだわらなきゃならないことをきちんと区分してね。まあ日常茶飯事でそんなようなことがあつたってね、本当にケロッとしているからね。そうだよ、懐が深いんだよ。だからね、いつまでたつても気まずい思いをしてなんとなく疎遠になるなんてことは絶対にな

いね。うん、ちつとやそつとのことじゃ。

猛者を相手にスッスッとまとめる

昔の話だけどね、諏訪で社会党総支部の執行委員会があるでしょ。岩井さんが書記長だ、当時。そして提案するんだよね。そうするとみんながなんか始めるよ。そうすると、いつの間にか岩井さんが居なくなっているんだよね。おい、岩井さんどこへいったよ、俺たちにかんがえやらせといでどっかへ行っちゃったじゃないか。表を見たら、進ちゃんか正子さんか二つか三つくらいのときだったな、抱っこして遊んでいるだよね。俺たちがん議論させといてだ。おい、岩井くん何とかしろよっていうと、「もういいか」っちゃこっちへ来てスッスッスッとまとめて、ちゃんとね落ち着くところへ落ち着くんだから。あとになつちゃ、また岩井さんにやられちゃったなんていつちゃ。いいおじいさんがね、白髪頭のそれこそ俺は社会党じゃない林虎雄党だっていうのもあるんだからね。それでもなんでもみんな岩井さんがまとめていってくれたからね。岩井三〇歳頃じゃないかな。

だからボクは自分より年上だと思っていたよ。ボクらタバコが好きで浅田飴の缶に刻みタバコみのりなんてのをいれてね。あれでバクバク吸いながら、黙ってみんなの言うことをきいている。われわれは陰でこそ話をしていたんだ。ありや大物だぞ、どう見たって共産党だな、なんて。けれど当時の人間であれじゃないかな、まボクは一緒に住んでいるからあれだけど、諏訪で岩井さんと接触しているのは国鉄の二、三人くらいじゃないかな。矢崎さんとかね。藤森さんも当時の仲間だわ。党人じゃ本当にいないよ。

園遊会招待状をピリピリ破く

下平正一あの人は隣の選挙区だからね。この間も勲章もらって天皇陛下にどうだこうだと。岩井さん笑っちゃったよ。それとボクはね、ひっそりしたのは、岩井さんにとっちゃ当り前のことだけれど、田中角栄の名前でね園遊会の招待状がきただよ。天皇陛下と話をする機会だね、みんな喜んで行くの。ま、今の労働組合の幹部はみんな行ってるわ。それでボクに見せただよ。桐の御紋のついた金のね、そりや大した招待状ですよ。名前が総理大臣田中角栄で来た。「武井さん、こんなの来たよ」っていうからちよつと見せてくれや、俺はそんなの見たことがない。それから読んでみて「岩井さんどうするんかい」と言ったら、「こんなの行くわけじゃないか」ってボクの見ている前でピリピリ破いて、ええ。あれはお見事だったな、うん。ちよつとできないよね。ボクに読ませるためにあそこに置いてたくれえなもんだ。そうでなけりやすぐ捨てちゃっただろうけどもね、ボクに見せたとしたらピリッと三つばかりに破ってボンと捨てちゃった。「岩井さんもつたいないじゃないか。一晩くらい置いといたらどうだい」って言ったんだ。そしたら「こんなもの家に置いとくもんじゃないよ、こりや屑籠へ入れりゃいいよ」って。あれ、納得している奥さんも偉いと思うな、ボクは。あれでもちよつとお父さん行ってみましようやとかくらないこと言うかと思や、言わねえからね、あの奥さん。岩井さんのやるとおりだわ。お前（夫人に向かつて）なんか言うかもしれないな、来っこないけどさ。

好奇心があつてさ、奥さんはどこへでもちよつと行ってみたい人だよ、とてもね。そりや好奇心の強い人。そのくらいだから勉強家だ。えらいですよ。けれどもああいうときに何とも言わねえからな。ああいうことができるちゆうことは信念ということですね。小柳勇さんだつてそうだ、勲二等けつたからね。ところが下平さんは飛びついていったから。それで勝間田さんのときもそうだったよ。あの人は勲一等か、衆議院副議長をやったからね。それで沼津でもって町中を集めてさ、大祝賀会をやったわけだ。ありやあ官民合同かな。大騒ぎだったよ。ボクのところへ招待状が来てね。岩井さんところへも来てね。岩井さんそれでも行くかなって思ってたんだけど「こういうことはやるべきことじゃない」ってね、無視しちゃったけどね。私も右にならえで。こりやあらゆる組織あげてね、そりや

見りやわかるわ。発起人に名前が出ているから。市長から始まって、もうあらゆる団体の。どちらかというとな勝間田さんなんという人は、色分けすれば左のほうに近いくらいに思っていたからね。あるいはと思った。まさかあの勲章もらいはしれないと思った。まあびつくりしたね。その挙げ句、あれだけの騒ぎをしたからね。大祝賀会をやったからね。まあそれだけ世の中も変わったかもしれないけど、岩井さんのような人はまず前後不世出というずら。まずああいう人は不世出の人物だよ。だからこの近所も面白いんだよ。われわれも毎日のように顔を出しちゃ「岩井さん」なんていつちやお茶飲み話をしているけど、ちよつと離れたところへ行きやもう岩井先生だからね。夕べも網代で笹島の選対会議をやって、岩井さんが後援会長だからね、ほいで奥さんが婦人部長だ。だで、二人出席して岩井さんなんか入っていくとみんな緊張しちゃって、それこそ「先生どうも」。ボクはそばで見えておつてなんだかくすぐつたいような気がするけどね。それだけちよつと離れば、それだけのアレがある人だというのはたしかだよ。えらいもんだよ。

こんど北海道へ行って、ボクは北海道は初めてだからね。なんとかしてこんな機会に連れていってもらわないと、まあおそらく自分独りで行くなんて機会はないからね。そいでもしも同志的に気分が通じ合うなんてないですね。体調を整えて、どうせならこういう機会だよ。ま、元気でいる間はお付き合ってください。誰か東京から来たつちゅうとおいでおいでだ新聞だけ見ても感じが出不い。どういった人たちが何をしているかね、一度お目にかかりたい。こういうことは誰かに話しておかないとだんだん消えちまうからね。ボクらは身をもって体験しているから。

人間を信用するか、機械を信用するか

そうそう熱海駅の自動販売機、お釣りが出てこなくてね。あれも愉快だったな。お釣りが足りないのよ。最初に出てきたのは市役所でいや係長級が出てきたわ。要するにオレンジカードで切符を買ったわけだ。あといくら、あといくらとでるの自体がすでに間違っているからね。それから何もこれ黙っているこたないと思ったから、どうしても向こうは機械優先なんだよ。機械に間違いがあるはずがないのにどうしてこうなっているんだと。なぜ一応機械に疑問をもたないのかと。人間の方を不信の目標にするのはおかしいじゃないかと。いったいあなたがた、その機械が何かお客が何かと。こつちもそういうことで、そして始末に困つてさ、じゃちよつと待つてくたさい。ほいで助役がきてどういふ話ですかと。こういうことだと。だけどもとも助役もね、機械が具合が悪いってこと絶対言わないんだよ。いずれにしてもこれは御客様の御納得のいくような方法でしなくちゃいけないと思うということだね、機械を点検することはできないのでとにかく今日のところは五〇〇円のオレンジカードがありますのでこれをお持ちになってひとつお引き取り願つてと。それじゃボクもこれ以上話をしていてもけりがつかないから、君の言うとおりオレンジカードもらつて帰ると。三〇分かつたよ。電車二つ見逃しちゃった。こつちもそんなに早く帰らんでいいから。こんなときにね、電車を気にしてもいいですなんて言つたら腹の虫が納まらないから、とことんまで頑張った。

(談)

好評増刷中!

『紙ひとえの選択』に多くの反響

『紙ひとえの選択——国労鹿児島一万分の一の記録』が好調です。すでに二刷を出版していますが、残部がほとんどなくなりました。次の増刷にはしばらく時間が必要です。五月末にはお届けできると思います。ご迷惑をかけますがよろしくお願い申し上げます。